



右:国技館大会でのスーパーチームの演目の振付は杉浦英容指導教官(手前中央)が担当。今回はまず『壇ノ浦を過ぐ』の振付が伝えられ、稽古に励んだ。また講師の見守り中、振付研修として財団会詩の振付をメンバー自身が試み、翌日の青年吟剣詩舞道研修会で披露された
左上:国技館大会では昨年に続いて吟詠と剣詩舞スーパーチームがコラボレーション。演目は『遊びをせんとや〜奇襲鴨越〜壇ノ浦を過ぐ』のメドレーになり、『壇ノ浦を過ぐ』以外は現代風にアレンジ。河野鶴聲指導教官(右から2人目)が身振りを交えて指導した

吟詠 & 剣詩舞スーパーチーム合同の研修会を開催

金曜夜はまず青柳芳寿朗副会長が「昨今のスーパーチームの活躍は素晴らしいものがありますが今回はさらに二歩進める日とした」と挨拶。続いて大田直樹事務局長の「吟詠・剣詩舞スーパーチーム制度の設立について。資格認定や35歳定年制について説明しました。さらに元ヤフーチケットの生島直樹氏による『デジタルコミュニケーションの活用について』の講義、

「事務局との意見交換」と続いて初日が終了。
翌日は吟詠、剣詩舞に分かれて全国吟剣詩舞道大会に向けての研修。バラード調の『遊びをせんとや』、ラテンのリズムに乗った『奇襲鴨越』、吟詠の『壇ノ浦を過ぐ』のメドレーになりますが、吟詠以外の2曲はチームメンバーの早淵鯉仙が作曲。吟詠チームはその音源を元に練習を繰り返しました。

青年吟剣詩舞道研修会に先立ち、金曜夜から土曜の午前中まで、スーパーチームの研修会が開催されました。2015年に誕生以来、アメリカ公演など多方面で活躍するスーパーチームですが、「もっと練習時間がほしい」というのがメンバーの切実な願い。それに応えて秋の国技館での全国吟剣詩舞道大会に向けての稽古を行うとともに、正式に決定された「吟詠・剣詩舞スーパーチーム制度」の説明も行われました。

〔日時〕平成31年6月28日(金)〜29日(土)
〔場所〕成田東武ホテルエアポート・2階会議場「松柏」
〔主催〕公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

国技館に 向けての 第一歩